

しまねっ湖



ヤマメ *Oncorhynchus masou masou*

CONTENTS

- 特集・冬の特別展……………2～3
- ゴビウスのなかまたち……………4
- しまねの水辺紀行／シャッターチャンス！……………5
- 飼育ノート……………6
- こらまたなんたら！／表紙の生きもの……………7
- イベント報告／インフォメーション……………8

魚屋さんの生きものの展

～鮮度バツグン！活きた話題をお届け～

開催期間：令和元年7月13日(木)～2年7月20日(日)

島根県には、大小の河川や汽水湖、自然海岸の割合が日本一の沿岸域など、多様な環境があり、水産物の宝庫です。今回の特別展では、スーパーマーケットなどの鮮魚コーナーで見かける魚介類の、食べるだけじゃもったいない魅力や不思議など活きた話題を、飼育スタッフの視点でお届けします。

ゴビウスたいたい市場

島根の水産物でまず思い浮かぶのは、「ノドグロ」ではないでしょうか？ノドグロは、プロテニスプレーヤーで島根県松江市出身の錦織圭選手の発言で一気に注目されました。脂がのった白身のため、どんな料理にしてもとても美味しいです。次に有名なのは「マアジ」です。浜田市沖で漁獲されるマアジの中には、脂質含有量が10%を超える（通常は3.5%程度）ものがあり、これを「どんちっちアジ」と名付けてブランド化しています。ほかにも、出雲市小伊津町で漁獲される「小伊津のアマダイ」や冬の味覚の王様「隠岐松葉ガニ」も知名度が高い水産物のひとつです。このような島根イチオシのさかなのいきいきとした姿を会場でご覧ください。

のどぐろ



アカムツ

口の中が黒いことから「ノドグロ」とよばれ、県内外で人気の高い高級魚です。水深の深いところに生息しているため、島根県ではおもに底びき網で漁獲されます。魚体を傷つけないように漁獲することが難しいため、展示している水族館はほとんどありません。（展示協力：新潟市水族館マリニピア日本海）

あじ



マアジ

小さな「豆あじ」は、県内の漁港などで簡単に釣ることができます。比較的成長が早く、1年も経たないうちに20センチを超えるようになります。売られているアジの体色は黒いですが、水槽内では体色が金色にひかります。大きくなると、魚食性が強くなるため、同じ水槽で飼育している小魚を食べることがあります。5～6月に浜田市沖で漁獲される「どんちっちアジ」の脂ののりは全国屈指です。

松葉ガニ



ズワイガニ

県内では、隠岐諸島周辺の水深200～500メートルの海底で、カゴを使って漁獲されるため、脚の折れたものが少なく、鮮度も良好です。700グラムを超える大型のものは「隠岐松葉ガニ」としてブランド化されています。松葉ガニとよばれているのは、大きなオスのみで、小さなメスは「セコガニ」や「親ガニ」とよばれています。水深がとても深いところにいるので、3℃くらいの冷水で飼育しています。

赤甘鯛



アカアマダイ

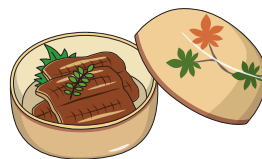
見た目に美しく、「甘鯛」と書き表されるほど上品な甘さが特徴の高級魚です。「小伊津のアマダイ」は、おもに京阪神に出荷され、高い評価を得ています。水深の深い泥底に穴を掘ってひそんでいます。

島根県のご当地珍味

大田市の五十猛では、ワニ（サメ）漁が行われ、刺身などで食べられています。サザエの漁獲量が多い隠岐では、肉の代わりにサザエを使った「さざえカレー」が有名で、お土産としても大人気です。また、春先に獲れるアメフラシは、隠岐の珍味です。宍道湖では、汽水ならではの7種の魚介類（スズキ、モロゲエビ、ウナギ、アマサギ、シジミ、コイ、シジミ）が宍道湖七珍として有名です。

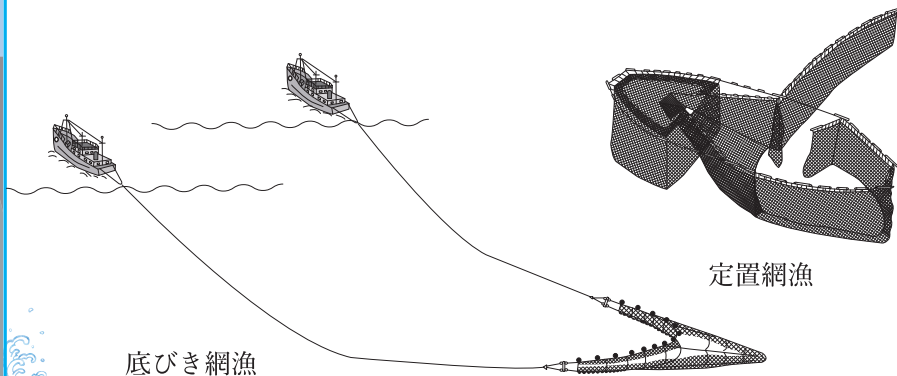


宍道湖七珍料理の
模型も展示しているよ！

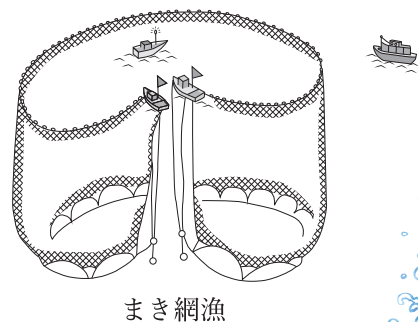


島根県の漁業について

島根県は、沖合から沿岸域にかけて、さまざまな漁業が行われています。特に、隠岐諸島北側の海域は、松葉ガニ（ズワイガニ）のよい漁場となっています。また、島根半島から隠岐諸島にかけては、水深70メートル程度の岩礁がつながっており、「一本釣り」の好漁場となっています。島根半島の沿岸はリアス式海岸になっており、その地形を利用した「定置網漁」が盛んです。大田市から浜田市にかけては、砂泥底が広がっており、「底びき網漁」が行われています。沖合では、マアジなどの回遊魚が多いため、「まき網漁」が行われています。



定置網漁

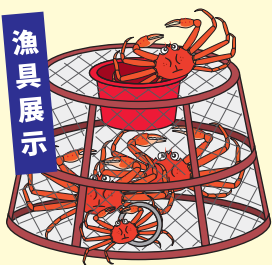


まき網漁

(山口勝秀)

特別展関連イベントも盛りだくさん！

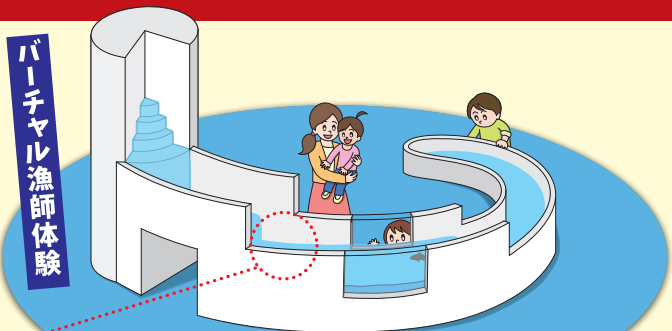
ふれてみよう！学べる 島根の水産業



漁師さん気分?! カニの気分?!
「カニかご」にふれてみよう！



見ているだけで思わず食べたくなる！
しまねのおいしい
海の幸ポスター



タッチプールで、定置網の模型を展示するよ！

特別展 スタンプブック 「魚屋さんの生きもの」

魚の魅力を解説した
ガイドブックを持って
スタンプをあつめよう！



じゃんけんマークつき！島根たぬたぬカード

特別展の生きものたちが
カードになったよ！

全部で9種類！

じゃんけんマークで対戦もできるよ！
カードを集めて家族やお友達とあそぼう！



※ひとり1日1枚です。来館時に受付にてプレゼントします。
数に限りがあるため、なくなり次第終了させていただきます。





ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま クロベンケイガニ

汽水のなかまたちのコーナーで、クロベンケイガニを展示しています。クロベンケイガニは河口周辺で見られるカニで、宍道湖や中海のヨシ原にもくらしています。夜行性のため昼間は岩のすき間で休んでいますが、夜になるとエサを探し回ったり脱皮をしたりと盛んに活動します。

さて、今回はそんなクロベンケイガニの食事風景を紹介します。野生下ではおもに生きものの死骸、水草、落ち葉などさまざまなものを食べま



ふだんの様子

す。そのため、ゴビウスでもオキアミやアジ、落ち葉や水草などを与えています。なんでも食べるのでエサの準備はそれほど苦労しませんが、どうしても少し「飽き性」のようです。ほかの展示生物は毎日決まった種類のエサを食べますが、クロベンケイ

ガニはそうはいきません。例えば、オキアミを3日続けて与えると、4日目は全く食べないことがあります。オキアミだけが飽きやすいだけではなく、アジが続いても水草が続いても食べなくなります（飽きても日にちが経ってから与えるとまた食べるようになります）。そのため、エサの種類を日替わりでかえる必要



オキアミを食べる様子

があります。種類をかえると「そうそう、これだよ!」と言わんばかりに勢いよく食べ始めるので、見ていて気持ちがいいです。その様子は「いつ見ても飽きないなあ」と感じる今日この頃です。

(梅原里歩)

淡水のなかま オオサンショウウオ

「展示している生きものは、元気に泳ぎまわって、お客様の目を楽しませてほしい!」飼育スタッフは、魚の大きさや数、くらしぶりなどから、展示する水槽や水槽内のレイアウトを考えます。しかし、中にはほとんど動かず、まるで置物のような魚もいます。ゴビウスでは、夜行性で小さな魚をまちぶせるタイプのナマズやアユカケ、カワアナゴなどが該当します。

魚ではありませんが、オオサンショウウオもそのひとつです。世界最大の両生類で「日本固有種」、「国の特別天然記念物」にも指定されていますが、中国山地には比較的多く生息しています。そんな肩書きがたくさんあるので、お客様の認知度も高く、オオサンショウウオを展示している水槽の近くでは、「うわあ、オオサンショウウオがいるって!」という声をよく聞きます。ところが、彼らは夜行性のため、開館中はほとんど動きません。雰囲気作りのため、水槽の照明も薄暗く、水槽内の擬岩や底の石もオオサンショウウオの体色に近いので、

「どこにいるの?」とか「ほんとにいるの?」という声も聞こえてきます。これが昼間のごく普通の姿です。ちなみに水槽には5匹入っていますので、よく探してみてください!

(中野浩史)



呼吸のため水面に近づくオオサンショウウオ。動くときどこにいるかすぐにわかる。

しまねの水辺紀行 ⑤7 ゴビウス周辺の水辺

9月の上旬、まだ残暑も厳しい頃にゴビウスで生きもの観察会が行われました。9月のテーマは「ゴビウス小川の生きもの探検隊!」。ゴビウスの小川にはどんな生きものがあるのか、参加者のみなさんと調べてみるという内容でした。



小川での生きもの探しのようす

みなさんの住んでいる場所の近くにも川、水路、池、湖、田んぼなど、さまざまな水辺があると思います。そこにどんな生きものがくらしているの



水路でも生きもの探しをしました

か、調べてみたことはあるでしょうか。

ミナミメダカ、クロベンケイガニ、スジエビなどは、小川の中でもよく見かける生きものです。しかし、それですべてというわけではありません。特にトンボの幼虫は、いることは知っていても、具体的にどんな種類がいるかまでは調べてみたこともなく、詳しくは知りませんでした。実際に捕まえてみるとギンヤンマ、アオモンイトトンボ、シオカラトンボと何種類も出てきます。

今回の観察会では小川だけでなく、比較のためにゴビウス周辺を流れる水路でも生きものを探してみました。少し水位が高かったため、安全のために水に入らずに岸辺から探したのですが、それでも生きもの シオカラトンボのヤゴの種類は増えていきます。ギンブナ、ドジョウ、ハゼのなかま、ガムシやヌマエビ、アメリカザリガニなどなど・・・。



みなさんの周りにある水辺にも、きっと多くの生きものたちがひっそりとくらしていると思います。あまり気にされることのない水の中にも、たくさんの命があふれていることを改めて気づかせてもらい、自宅近くの水辺でも少し調べてみたい気にさせてもらった観察会になりました。

ただ、くれぐれも安全には気をつけて、決して一人では行かないようにしてください。

(佐々木興)

シャッターチャンス!

父親になったゴクラクハゼが一生懸命、卵を守っていました。通常、外敵を警戒して石の下に産卵しますが、展示水槽では石の上に産卵していたので、じっくり観察できました。

頼もしいイクメンぶりに安心し、誕生が楽しみです。

(赤松尚美)





イシドンコは、島根県西部の一部の河川に生息し、水がきれいで流れがあり、川底に石がたくさんあるところを好みます。数が少なく絶滅の恐れがあることから、しまねレッドデータブック（2014）にも選定されている魚です。見た目は、ドンコにそっくりですが、イシドンコの体つきのほうが、やや平たくなっています。



イシドンコの卵

現在、展示しているイシドンコは、ゴビウスで生まれました。ここでは、イシドンコの飼育記録を紹介します。

2018年7月13日に展示水槽にて、産卵を確認しました。卵を大きなプラケースに入れ、水温管理ができる冷却器のついた水槽に浮かべました。7月22日にふ化を確認し、ふ化時の赤ちゃんの大きさは、約5ミリでした。

それから赤ちゃんの飼育が始まりました。水中にはエアー（空気）を送りますが、重要なのはその強弱です。強いと、赤ちゃんが流されて弱ってしまいます。逆に弱いと、酸欠になって死んでしまいます。適切なエアレーションの量になるよう調整しました。水をきれいにするろ過装置は赤ちゃんが吸いこまれてしまうため、設置しませんでした。そのため、水が汚れやすくなるので、細いチューブを使って、赤ちゃんを吸わないように注意しながら、こまめに水換えをして食べるこしなどを取り除き、少しでもイシドンコにとって快適な環境となるように心がけました。秋には少し大きくなったので、展示水槽に移してデビューしました。

次にエサです。最初は、アルテミアというとても小さな生きたエサを与えました。アルテミアは、

魚の赤ちゃんのエサとして、水族館ではよく利用されています。そして、成長にあわせてエサの大きさや種類を変更します。早く大きく成長させるために、人の手で作られた配合飼料を与えますが、なかなか食べてくれません。イシドンコは自然界では、小魚やエビなどを食べる肉食性の魚です。生きたエサは喜んで食べてくれますが、動かないエサには興味を示してくれませんでした。結局、配合飼料は食べなかったため、ふ化2カ月後から冷凍赤虫を小さく刻んで与えました。すると、赤虫独特の匂いに誘われて少しずつ食べるようになりました。今でも冷凍赤虫をメインで与えています。



エサの赤虫

飼育での苦労もありましたが、すくすくと元気に育っています。イシドンコは、20センチほどになりますが、水槽の個体たちはまだ7センチ前後です。展示数は約20匹と多くはありませんが、今後は、もっともっと大きくなることを期待しながら、飼育を楽しみたいと思います。

（高橋由也）



成長したイシドンコ

こらまたなんだら! 其の二十 日本海のハコフグ

晩秋の漁で1尾のハコフグを見つけました。本来はもっと暖かい海にすんでいて、いざとなれば意外なほどのスピードで泳ぐハコフグも、下がり始めた日本海の水温がこたえているのか、いつも以上にゆったりとした様子です。水族館で働き始めた頃、先輩職員に「ハコフグくらい手で捕まえられなくてどうする」と言われ、水面近くのハコフグを見つけては、素早く手づかみにしていたことをなつかしく思い出しながら、フラフラと泳ぐその姿を眺めていました。

南の海から対馬暖流に乗って島根にやってくる生きものはハコフグだけではありません。ここ数年、冬になると県内各地で大量に打ち上がるハリセンボンや、猛毒を持つため海水浴シーズンになると新聞やテレビを賑わせるヒョウモンダコも、本来の生息域はもっと南の海域です。こうした生きものたちは、冬になって水温が低下し始めても、強い潮流に逆らって南に戻る事ができず、ほとんどが死亡してしまうため「死滅回遊魚」と呼ばれています。ところが、温暖化が進行する近年、「死滅しない死滅回遊魚」があらわれるようになりました。この100年の間に全世界の平均海水温は0.54℃、日本海中部海域に限ると1.70℃も上昇していることを考えると、起こるべくして起こっている現象なのかも知れません。



そのうち島根でも普通に見られるかも?
ミナミハコフグの幼魚 (九州で撮影)

話題になりやすいハリセンボンやヒョウモンダコに限らず、大小さまざまな南方系の生きものが日本海沿岸を北へ北へと生息域を広げていることは間違いないようです。

今後それらが定着するとどうなるのか?

こうした変化がこれから何を引き起こすのか?

地域でみられる生きものの種類が変わるだけ、という単純な話ではないことだけは確かです。フラフラと岸から離れていくハコフグを見送りながらそんなことを考えていました。

(中畑勝見)

表紙の生きもの ヤマメ *Oncorhynchus masou masou*

川の上流域に生息するサケのなかまです。冷たくて清らかな水を好み、体にパーマークという、細長い円形の模様があります。その見た目の美しさから別名「溪流の女王」ともよばれています。また、ヤマメにはサケのように海に降るものがいます。海では、より大きく強い生きものに襲われる危険が高くなりますが、その反面、エサとなる生きものが豊富なため、より大きく成長することができます。海で大きく成長し、再び生まれた川に戻り、産卵する頃には、体色が朱色に染まっています。展示水槽のヤマメも秋が深まるにつれて朱色が目立つようになります。

(森永和希)



体色が朱色になった展示水槽のヤマメ

イベント報告



夜のすいぞくがん ナイト★ゴビウス2019

10月12日と19日の2日間限定で、夜間開館イベント「ナイト☆ゴビウス2019」を実施しました。今年は館外や館内のライトアップのほかに、手に押した蛍光ゴビウススタンプをブラックライトで光らせるイベントや、夜行性の生きものを観察する生きもの探検を行いました。生きもの探検では暗い部屋の中で、それぞれ懐中電灯を使い、隠れているヘビやカエルを探してもらいました。中には、ヘビやカエルが苦手な方もいらっしやいました。しかし、エサを食べる様子などを熱心に観察している姿を見ると、少し興味を持ってもらえたのではないかと嬉しく思いました。

(仲波友美)



ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

1/26 日曜日 10:00～11:30 受付開始 **1/12**

チリメンモンスターをさがせ！

チリメンモンスターは、チリメンジャコの中にまぎっているタコやカニなどの子どものこと。探して、調べてオリジナルカードをつくらう！

2/16 日曜日 10:00～11:30 受付開始 **2/2**

水草おしばをつくらしてみよう！

川や池などで見られる水草でおしばをつくらしてみよう！
どんな水草おしばができるかな？

3/8 日曜日 10:00～11:30 受付開始 **2/23**

目指せ！シラウオ博士

穴道湖七珍のひとつのシラウオには、どんなひみつがあるかな？
体の形やオスとメスの違いを観察してみよう！

定員 申込先着 **30名** **対象** どなたでも
(小学生以下は保護者の参加も必要)

開催 2週間前から電話にてお申し込みください。
お問い合わせ **お申し込みは** **TEL 0853-63-7100**

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

生きもの情報も発信中だよ！ <http://www.gobius.jp/>

ボトルアクアリウムを つくってみよう



2020
1/11

午前の部 **9:30～11:30**

午後の部 **13:30～15:30**

※時間中、入退場自由です。

定員 午前・午後
各回 **先着150個**

2020
2/8

参加費 無料(別途入館料が必要です)
(入館料/大人: 500円 小中高生: 200円)

場所 **ゴビウス レクチャールーム**

2020年は1月1日から開館！

1月1日から5日まで、各日先着 100名様にオリジナル卓上カレンダーをプレゼント！

ゴビウス千支水族館～子年～

1月1日(水)～1月20日(月)

ご来館案内

●入館料/大人…500円(400円)

小中高生…200円(160円)

※()内は団体20名様以上の料金

●年間パスポート/大人…1,400円

小中高生…500円

ご家族で同時にご購入いただくと2割引になります。

大人 1,120円、小中高生 400円。

※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。

●開館時間/9:30～17:00(最終入館は16:30)

●休館日/火曜日、年末(12月28日～12月31日)

※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。

みなさんのご来館
お待ちしております。



●一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分 ●出雲空港より車で10分
●山陰道穴道インターより車で15分

●駐車場/100台(無料・トイレ完備)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.66

発行日/令和1年12月10日

発行/島根県立穴道湖自然館ゴビウス(管理運営: ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称: 公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称: 島根県立穴道湖自然館

動物取扱業の種別: 展示

登録番号: 第073102040号

登録年月日: 平成19年5月17日

登録有効期限: 平成34年5月16日

取扱責任者: 中野浩史